

# 宮崎県のひきこもり等に関するアンケート調査結果

障がい福祉課

## 1 調査概要

### (1) 目的

近年、ひきこもり状態にある若者の増加やひきこもりの長期化、高年齢化が深刻な問題となっている。

県では、平成26年度から、「ひきこもり地域支援センター」を設置し、関係機関と連携を図りながら、電話や面接による相談対応、家族間の交流や研修等の事業を実施しているが、ひきこもり等の状態にある方の状況について把握できていない。そこで、地域の実情に通じた民生委員・児童委員に対するアンケート形式の調査を実施することにより、ひきこもり等についての実態を把握するとともに、今後のひきこもり対策に関する施策の方向を検討するための基本データとすることを目的として本調査を実施した。

### (2) 調査対象

おおむね15歳から65歳までで、次に該当するような「ひきこもり等の状態にある方」

- ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人と交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方
  - ② 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人と交流はないが、時々（会話を必要としない）買い物などで外出することがある方
- ※ただし、重度の障がい等で外出できない方は除く。

### (3) 調査基準日

平成30年7月1日現在

### (4) 調査方法

県内全ての民生委員・児童委員に対するアンケート調査

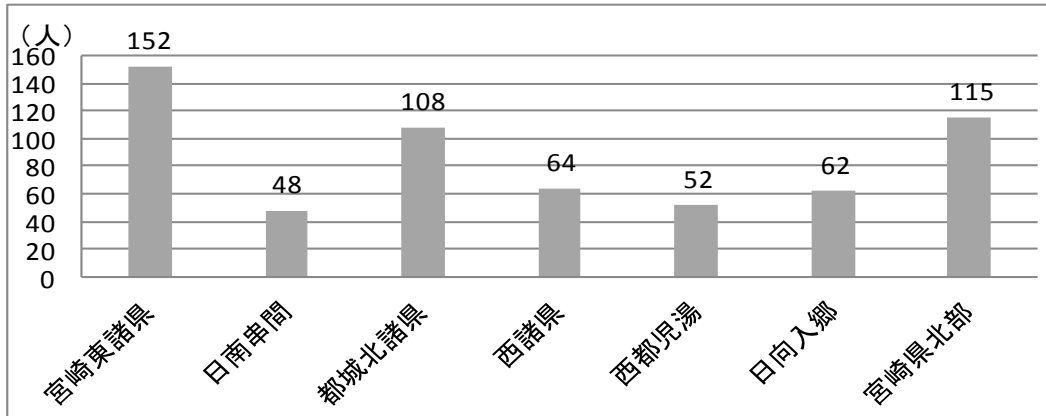
### (5) 回収結果（回収率）

2,001人（回答率83.9%）

## 2 調査結果

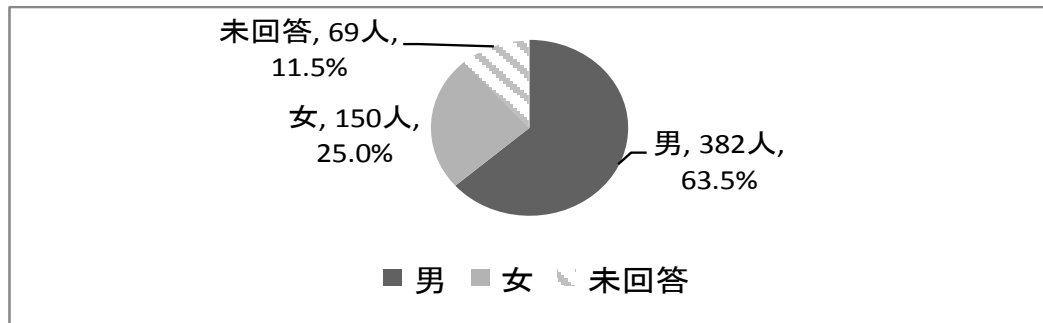
### (1) 該当者の人数

本調査より把握できた該当者の総数は、601人となっている。



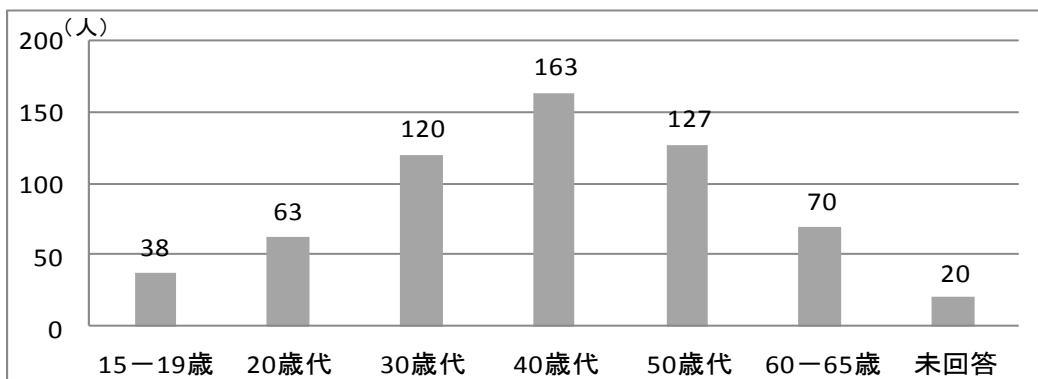
(2) 該当者の性別

該当者の性別は、男性が382人(63.5%)、女性が150人(25.0%)となっており、男性が女性の約2.5倍となっている。



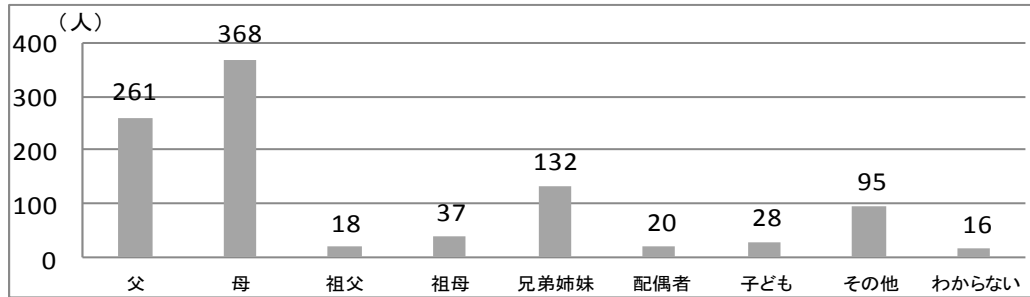
(3) 該当者の年代別状況

年代別では、40歳代が163人と最も多く、次に50歳代が127人となっている。中高年層(40歳から65歳)が360人(59.9%)と若年層(15歳から39歳)の221人(36.8%)を上回っている。



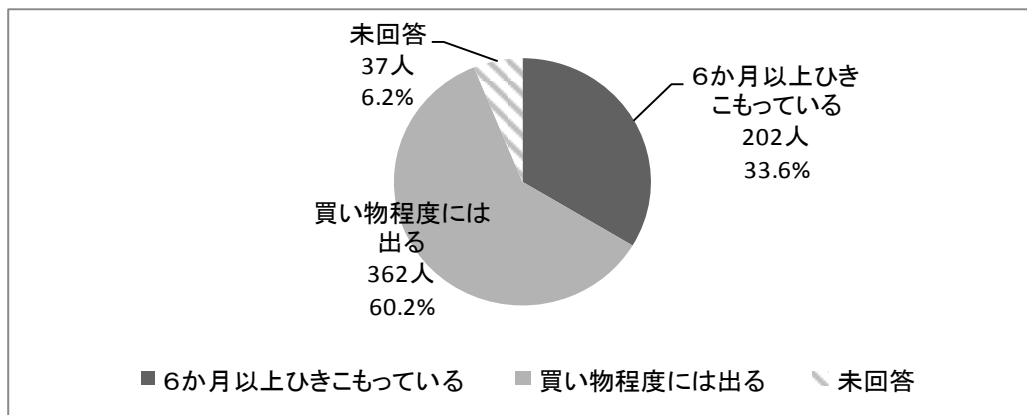
(4) 該当者の家族構成(複数回答)

家族構成では、母親と同居している場合が最も多く368人(37.7%)、次いで父親が261人(26.8%)となっており、親との同居が多い。



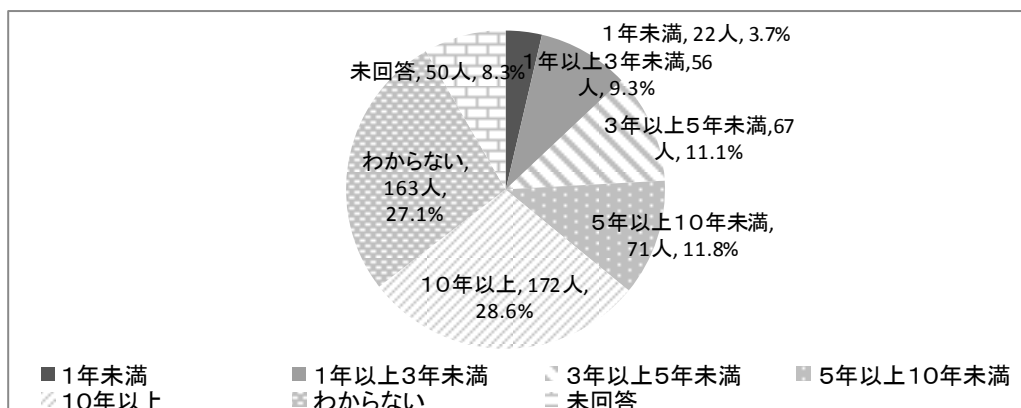
(5) 該当者の状況

「ひきこもっているが、買い物程度には出る」が362人(60.2%)、「6か月以上ひきこもっている」が202人(33.6%)となっている。



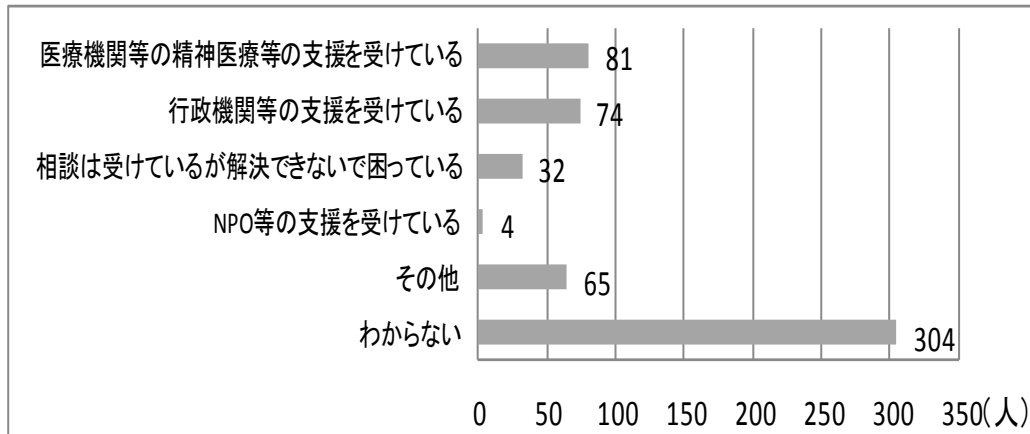
(6) 該当者のひきこもり等の状態にある期間

「10年以上」ひきこもり等の状態にある方が、172人(28.6%)で最も多く、次に「5年以上10年未満」が71人(11.8%)となっている。



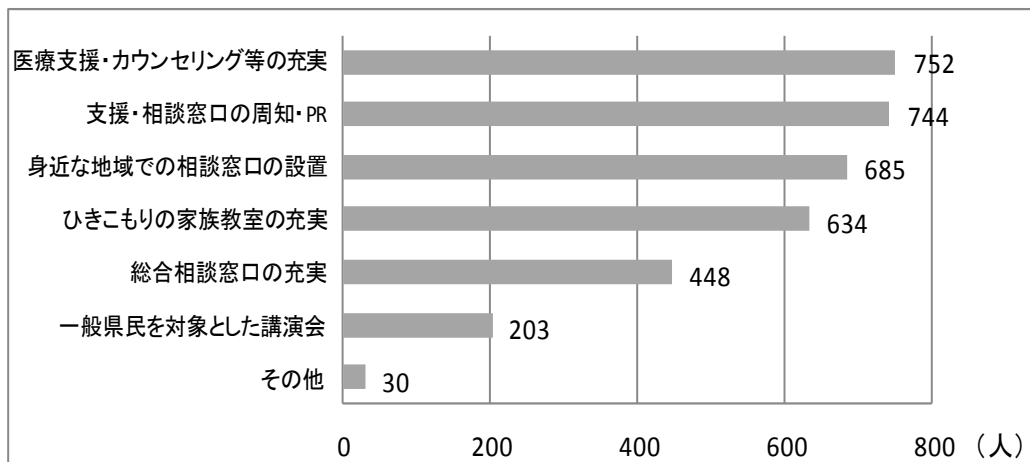
(7) 該当者への支援の状況 (複数回答)

「わからない」が304人(54.3%)と最も多い。支援の状況がわかる中では、「医療機関等の精神医療等の支援を受けている」が81人(14.5%)と最も多く、次に「行政機関等の支援を受けている」が74人(13.2%)となっている。



(8) ひきこもり等の状態にある方への支援策として必要なもの（複数回答）

「医療支援・カウンセリング等の充実」が752人（21.5%）と最も多く、次に「支援・相談窓口の周知・PR」が744人（21.3%）、「身近な地域での相談窓口の設置」が685人（19.6%）となっている。



(9) 自由記述欄への回答状況（主なもの）

- ・ひきこもっていることは、家族も隠す傾向もあり、実態を把握しにくいと思う。
- ・支援する側にも、本人、家族のプライバシーへの考慮が大事である。
- ・ひきこもりの問題は、どこでも、誰でも起こりうる。その時、いち早く対応すれば、本人はもとより、家族も助かると思う。早急な対応が必要。
- ・民生委員を対象とした研修会を行って欲しい。